

第6学年「家庭」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 調理や裁縫に関心があり、器用な児童が多い。
○ 清掃活動や生活環境をよくする取り組みに熱心に取り組む児童が多い。
- 課題** ▼ 生活計画の乏しい児童、また家庭環境や教育方針も多様であることから、家庭生活を大切にする心情面や、より良い家庭生活を送るための実践面に関する指導にきめ細かい配慮を要する。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 日常生活に必要な基礎的な理解と技能を身に付け、実践する力。
- ◇ 日常生活の中から問題を見出し、解決しようとする力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 手縫いやミシン縫い、調理における様々な技能について理解を深めさせ、実践を通して技能を高める。

言語活動の工夫

- 自分の言葉で説明させる機会を多く作る。

I C T活用の工夫

- I C Tを活用しながら、調理用具や裁縫用具、ミシンの使い方などを丁寧に指導する。

課題解決力育成の工夫

- 学習内容を生かす家庭学習の課題を設け、自分の生活に学習したことを生かそうとする態度を育てる。

達成目標

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的理解とともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。